

# 基本的英国価値方針

## 日本人学校



|           |         |           |
|-----------|---------|-----------|
| 承認済み      | 学校運営委員会 | 日付2025年9月 |
| 最終レビュー日   | 2025年9月 |           |
| 次回のレビュー期限 | 2026年9月 |           |

| バージョン番号 | 変更者  | 修正内容            | 変更日        |
|---------|------|-----------------|------------|
| 1.1     | K.西原 | フォーマットを見直し、更新する | 01/04/2021 |
| 1.2     | K.岡本 | 更新              | 28/04/2022 |
| 1.3     | K.岡本 | 見直しと更新          | 04/05/2022 |
| 1.4     | K.岡本 | 見直しと更新          | 01/06/2023 |
| 1.5     | K.岡本 | 見直しと更新          | 01/09/2024 |
| 1.6     | A.房田 | 見直しと更新          | 23/09/2025 |
|         |      |                 |            |

本方針は、以下の他の方針と併せてお読みください：

- 2014年独立学校基準規則
- 2025年9月 日本人学校児童保護方針
- 文部科学省認定学習指導要領

## 英国の基本的価値観の推進

日本人学校は、政府の予防戦略に沿って、基本的な英国の価値観の推進に取り組んでいる。これらの英国の価値観とは、民主主義、個人の自由、法の支配、相互尊重、異なる信仰や信念を持つ人々への寛容である。それぞれを以下に定義し、例を用いて学校の文脈に当てはめている。これらの基本的な英国の価値観を損なわないようにすることは、間違いなくすべての人の義務である。これらは典型的な英国の価値観に沿ったものではないが、文部科学省が指示する日本のカリキュラムに従えば、小6と中2・3は社会科や総合的な学習の時間などを通して学習する。

## 民主主義

民主主義は、権利と特権の平等を特徴とする社会の状態として見ることができる。また、わが国の選挙制度を指すこともある。

本校では、以下のようなことを通して民主主義の重要性を推進している：

- 小学部6年生（キー・ステージ3）および中学部2・3年生（キー・ステージ4）には、PSHE、SMSC、RSEのカリキュラムに概説されているトピックを包括的に扱った学習プログラムが提供される。
- 児童生徒の責任ある地位に対する自由で公正な選挙プロセス。
- 授業の中で、児童生徒が別の進路を考えるよう奨励する。
- 全校アンケートを通じて、本校の重要な決定事項について児童生徒の意見を聞く。

- 児童生徒たちはまた、自分たちを代表する仲間を選ぶ。

## 個人の自由

個人の自由とは、一般に政府の管理外とみなされる権利の自由な行使を意味する。

本校では、以下のようなことを通して、個人の自由の重要性を推進している：

- 学年が上がるにつれて、児童生徒たちに与えられる自由が増える。
- 課外活動や部活動。
- 児童生徒が授業において、形成的な方法で意見を述べることを奨励。
- 進路の選択について児童生徒の自主性を尊重。
- 食事、運動、健康な心、前向きなライフスタイルに関する「健康な選択」について学ぶ。
- PSHE（道徳教育）活動を通じて、過激化・過激主義について学ぶ。

## 法の支配

すべての人と組織は、公正に適用され執行される法律に従い、その責任を負う。

本校では次のようなことを通して、法の支配の重要性を推進している：

- 学級には共通の実践規範がある。
- 学習のための行動はすべての学級で奨励されている。
- 本校には明確な制裁方針があり、児童生徒の成果には積極的に報いる。
- 宿題だけでなく、採点とフィードバックの方針も明確な境界線を設定し、児童生徒に明確に説明する。
- 説明責任は、教職員[教師の基準]、児童生徒[児童生徒の行動規範]、委員会メンバーを含むすべての利害関係者に強調される。

## 相互尊重

個人の尊厳に対する適切な配慮

ファンダメンタル・ブリティッシュ・バリュー・ポリシー

本校では、以下のようなことを通して、お互いを尊重することの大切さを伝えている：

- 学級での実践規範
- 学校理念
- 全てにおける適切な行動に関する明確なガイダンス
- 異文化、ステレオタイプ、偏見に焦点を当てたものを含む集会
- 学級会／集会を通してウェルビーイング、相互尊敬の概念を培う

### 異なる信仰や信念を持つ人々に対する寛容さ

信仰や信条が自分と異なる人々に対して、公平かつ客観的で寛容な態度をとること。

本校では、以下のようなことを通して、異なる信仰や信条を持つ人々に対する寛容さの重要性を推進している：

- いくつかの宗教的信条を守ること。
- 信仰の象徴を受け入れる。

日本の法律では宗教の授業は認められておらず、日本政府から認可を受けた学校として、私たちは法律に従わなければならない。しかし、小学部6年生と中学部の生徒は、歴史や公民などの授業を通して宗教の一部を学んでいる。

### SMSCとPSHE

一人ひとりの個性を伸ばし、変化し続ける世界に対応できる児童生徒を育てるため、本校では、あらゆる機会をとらえて、青少年の市民性（PSHE）を育み、精神的、道徳的、社会的、文化的（SMSC）な発達を促進するよう努めている。本校には、充実したプログラムがあり、多くの旅行や校外学習に参加する機会がある。また、すべての教科で道徳的な問題や個人的な経験、疑問について話し合う機会を設け、児童生徒の社会的能力を伸ばす手助けをしている。総合学習は各学年によって異なる。カリキュラムの中には、イギリスらしさや学校行事に関連したも

のもある。

### **予防義務**

全職員が法定義務を理解している。年度を通じて、すべての職員と運営委員は、非常に具体的な研修を含む保護に関する研修を受けている。全職員は、青少年の過激主義や先鋭化に関するいかなる懸念も保護問題として扱われること、したがって全く同じように扱われるべきであることを理解している。本校では、何らかの懸念がある場合には、しっかりとした手順を設けている。教室でのオープンなディスカッションを通して、安全で協力的な環境の中で、若者たちが自分たちの考えを試すことができるようにしている。

日本人学校には「現職教育プログラム」があり、教職員は毎年、明確かつ正確にその指示に従っている。

### **モニタリング**

学校長は、傾向や改善点を把握するため、毎年この方針の見直しを行う。